

九月度月次祭 理事長お話

「9月度月次祭」、おめでとうございます。

夏休みが終わり、9月に入りました。今月は、「白露」や「重陽の節句」など秋を感じさせる節目を迎える月でもあり、少しは涼しげなご挨拶をと思いましたが、依然として厳しい残暑の日々が続いています。

先般、私共は、聖地・瑞雲郷の「救世会館」におきまして、8月度の「月次祭」に併せて、本年の「世界平和祈願祭・祖霊大祭」を真心込めて厳かに執り行わせていただきましたこと、私共のうちに生きておられる全ての先祖の方々と共に、明主様に心より感謝申し上げ、主神をお讃え申し上げたいと存じます。

教主様には、私共のためにご出座賜り、み教えの神髓をご教導くださいましたこと、あらためて皆さまと共に心から御礼申し上げたいと思います。

私共は、このたび賜りましたご教導を繰り返し学ばせていただき、全てのみ教えの源にある主神のご意志を、素直により一層お受けさせていただきまますよう努めさせていただきたいと思います。

そして、明主様が万人の救いとしてお示しくくださった「永遠の生命の道」である「神の子たるメシア」の道、つまり、私共をご自身の子供たるメシアとして新しく生まれさせるという主神のご意志が、全てに及んでいることを全身にお受けさせていただく道を、私共はひたすら歩ませていただきたいと思います。

その上で、この「天国の福音」を多くの方にお伝えしていく「①之光教団の全く新しい布教」である「想念の御用」に、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」を通して、ひたむきにお仕えさせていただきますよう。

さて、本日は、全国の信徒の皆さまに、大変嬉しいお知らせをさせていただきたいと存じます。

①之光教団理事会は、教主様のお許しを賜り、本日を期して「大光明」を全ての信徒家庭のご神体と定め、奉斎させていただくことを決定致しました。

私は、このたび、全国全ての信徒家庭に「大光明」のご神体奉斎の道が開かれたことにつきまして、心から感謝申し上げますとともに、強く見つめさせていただいていることがあります。

一昨年から今年にかけて、まず本部にお許しいただいた「大光明」のご奉斎が、全国の布教区へ、そして、全ての布教所へとお許しいただく中で、私は、神様が私の心に何を養い育ててくださっているのか、何に目覚めさせて

くださっているのか、その神様のみ心を全身にお受けさせていただきたいと思わせていただいております。

教主様は、「⑤之光教団本部のご神体について」というお言葉の中で、

明主様は、神は光であるとお述べになりました。

私どもの魂の親である唯一の神・主神の光は、私どもの中心に存在し、常に燦然と輝いております。

私は、この光こそ、明主様のご立教当初からお示しくくださった「大光明」という大いなる光であると思います。

主神は、夜昼転換を終えられた今、ご自身の光の中にすべてを迎え入れるという、全く新しい創造の営みを、私ども一人ひとりのうちに成し遂げておられます。

この新しい創造の営みの中で、⑤之光教団の皆様には、明主様に結ばれたものとして、自らのうちに主神の光が存在していることを認め、すべてのものと共に、主神に対し、大いなる光の中に立ち返らせていただくという意思表示に努めておられますことを、私は大変嬉しく、頼もしく感じております。

教主様は、私共が「大光明」のご神体をお許しいただくことについて、このようにお示しくございました。

明主様は、神の分^{わけ}霊^{みたま}である私共人間のことを、「神の子」であり、「神の宮」である旨み教えてくださいましたが、私は、教主様のご教導に与るまでは、自らが「神の子」であり「神の宮」であることに、強く心に向けることはなかったように思います。皆さまはいかがでしょう。

私は、自分の存在について、主神の分霊である魂と共に、主神の永遠の命が、主神のご意志が、そして大光明輝く天国が、自分の中に始めから存在していることに全く気付くことなく生きてきたことを知るに至りました。

また、私は、自らに賜っている魂や命や意識を、霊の体^{からだ}や肉の体を、想念や言葉など全てを自分のものとして生きてきたことに、ご教導を通して思いを致すことが許されました。

このように、私は、み教えの神髄、つまり、全てのみ教えの源にある主神のご意志を求めてご教導くださる教主様のお言葉をいただき、「大光明」のご神体奉斎の営みにお仕えさせていただく中、神様をないがしろにしてきた自らの姿の一端に初めて気付かせていただきました。

そして、全ての人の中心には、「大光明」の光に満ち満ちた、神様の子供

である「素晴らしい本当の自分」が実在していることに、初めて目覚めさせていただきました。

私は、主神の「大光明」の光が、始めから、そして今も、どのような時も私共の中心に燦然と輝き、私共の全てを照らして下さっていることを知り、心震える思いで受け止めさせていただきました。

このことは、私にとりまして大転換であるとともに、この上ない「天国の福音」をいただいたものと、私は心からの喜びをもって神様にご奉告申し上げました。

また一方で、私は今、明主様によって「夜昼転換」や「メシヤ降誕」のご事蹟に結んでいただき、主神の大いなる赦しをお受けしていることについて、もう一度見つめ直し、受け止めさせていただけなければならないことがあるのではないかと思わせていただいております。

教主様は、京都・滋賀布教区へのご巡教の折、

私どもの父母先祖の方々を始めとする全人類は、自らが天国に立ち返って、主神の子として新しく生まれるべき存在であることを忘れ、主神の創造のみ旨をないがしろにして生きてまいりました。

そうした私ども人類を、主神は赦してくださいました。

主神は、私ども一人ひとりの中で夜昼転換を成し遂げられ、主神をないがしろにしていた私どもをメシアの御名みなにあつて赦してくださいました。

この最大の福音を、私どもは明主様によって知らされました。

教主様は、このようにお示してくださいました。

私は、このご教導を通して、『如何ならむ罪も赦させ如何ならむ罪も咎とがむる天地の神』という明主様のお歌が心に浮かんでまいりました。

私は、自らのうちにある神様のご存在とその本当のご意志を知ることなく、ないがしろにしてきた今日までの私の姿について、本当はその全てが咎められるべき、赦されなければならなかった姿だったのではないかと思っていなかったことに気付かせていただきました。

そして、その全てを赦して下さった主神の赦しとは、想像もつかないほどの大いなる赦しであることを思う時、私は、教主様が人類最大の福音とおっしゃったこの主神の赦しを、今、全身全霊をもってお受けさせていただくことが、神様への大切な順序礼節なのではないかと受け止めさせていただいております。

私は、神様に対する申し訳なさや恐れ多さに、多少なりとも気付かせていただいたことを、心からの感謝をもって神様にご奉告させていただきました。

私は、このように思わせていただけることについて、また、そのことを神様にご奉告させていただけることについて、先般の「祖霊大祭」のご教導を通して思わせていただいたことがあります。

教主様は、

先祖の方々も、私どもも、全人類は等しく、主神の子たるメシアとして新しく生まれるための永続的な養いをお受けしているのです。

と、お示しく下さいました。そして、

主神は今、全く新しい息を私どもに吹き込んでくださっているのです。

と仰せになり、その息について、

私どもの息は、メシアの御名^{みな}にある主神の全く新しい息であります。

この息の中には、主神が全人類をご自身の子・メシアとして新しく生まれさせるために、全人類を分け隔てなく愛し、すべてを赦すという、厳然としたご意志が込められております。

と、このようにご明示下さいました。

さらに、教主様は、

この全く新しい息は、実は、主神が、私どもの始まりの天国において、ご自身の永遠の命として私どもの中に吹き込んでくださっていた息であります。

と、このようにご教導下さいました。

私は、神様の子供たるメシアとして新しく生まれるための養いを、始めから、そして今も、主神の永遠の命の息とともにずっとお受けしているからこそ、だからこそ、恐れ多くも主神との交流にお使いいただき、さまざまな気付きを許され、ご奉告させていただけることを、決して忘れてはいけないと思わせていただきました。

私は、神様の本当のご意志に気付かない私に対して、神様がずっと天国への呼び掛けをくださり、待ち続けてくださっていたことを思う時、今私なりに精いっぱいお応えさせていただかなければと思わせていただいております。

また、教主補佐は、専従者との懇談会において、“唯一の神様が親でいらっしゃる天国の家族があるんです、”という主旨のお話をしてくださっています。

私は、今神様が「大光明」のご神体奉斎の営みをお与えくださり、神様をないがしろにしてきた人類の代表である私共一人一人に対して、“神と人との親子関係の修復、”の千載一遇の機会をお与えくださり、畏れ多いことですが、天国の家族なんだよと始めからおっしゃってくださっていたことに、目覚めさせてくださっているように受け止めさせていただいております。

私は、『神は光にして…』という、『光と栄えを欲するものは来れ 来りてメシアの御名を奉称せよ さらば救われん』という「光のお言葉」には、こうした神様のご意志が込められている「天国の福音」なのではないかと、感謝をもってお受けさせていただきたいと思っています。

また、「メシヤの御神」という御神名や“明主様と共にあるメシアの御名にあって、”という言霊を感謝をもって奉称させていただき、私の中に成し遂げてくださっている「夜昼転換」による主神の赦しを心からお受けさせていただきたいと思います。

そして、「神さま、あなたは生きています。わたしの中で、生きています…」という「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用、”をもって全ての事柄に臨ませていただき、神様からの天国への呼び掛けをまず自らが全身にお受けし、そのみ恵みを多くの人々と分かち合い、全てを主神に帰す御用にお仕えさせていただきたいと思います。

私は、「大光明」のご神体について、こうした「天国の福音」の象徴なのではないかと思わせいただきました。

ですから、私は、神様が私共のことをこんなにも大切に思ってくださっているみ心を、全身全霊にお受けさせていただいていたことを認め、まず自らが全てのものと共に「大光明」をお受けさせていただきましたと、本日のご参拝を通して、明主様と共にあるメシアの御名にあって、神様にご奉告させていただきました。

最後に、教主様が「祖霊大祭」にてお示しくくださった祈りをもって、一緒に来月の「秋季大祭」に向けて出発させていただきたいと存じます。

“明主様と共にあるメシアの御名^{みな}にあつて、父母先祖の方々と共に、万物と共に、天国に立ち返り、息のうちにある赦しをお受けさせていただきます。このみ恵みがすべてのものに分け与えられますようお使いください。お仕えさせていただきます。吸う息吐く息、吐く息吸う息のうちに、み旨を成し遂げてくださいますように。主神に委ねさせていただきます。”

本日も、こうして一緒に、明主様と共にあるメシアの御名にあつて、主神にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、「秋季大祭」に向けての皆さまのご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますようお祈り申し上げます。

ありがとうございました。